



CSS2021 研究倫理相談TF/MWS/OWS/UWS連携企画  
「Hypocrite Commits論文から考える  
サイバーセキュリティ研究倫理」

2021年10月27日

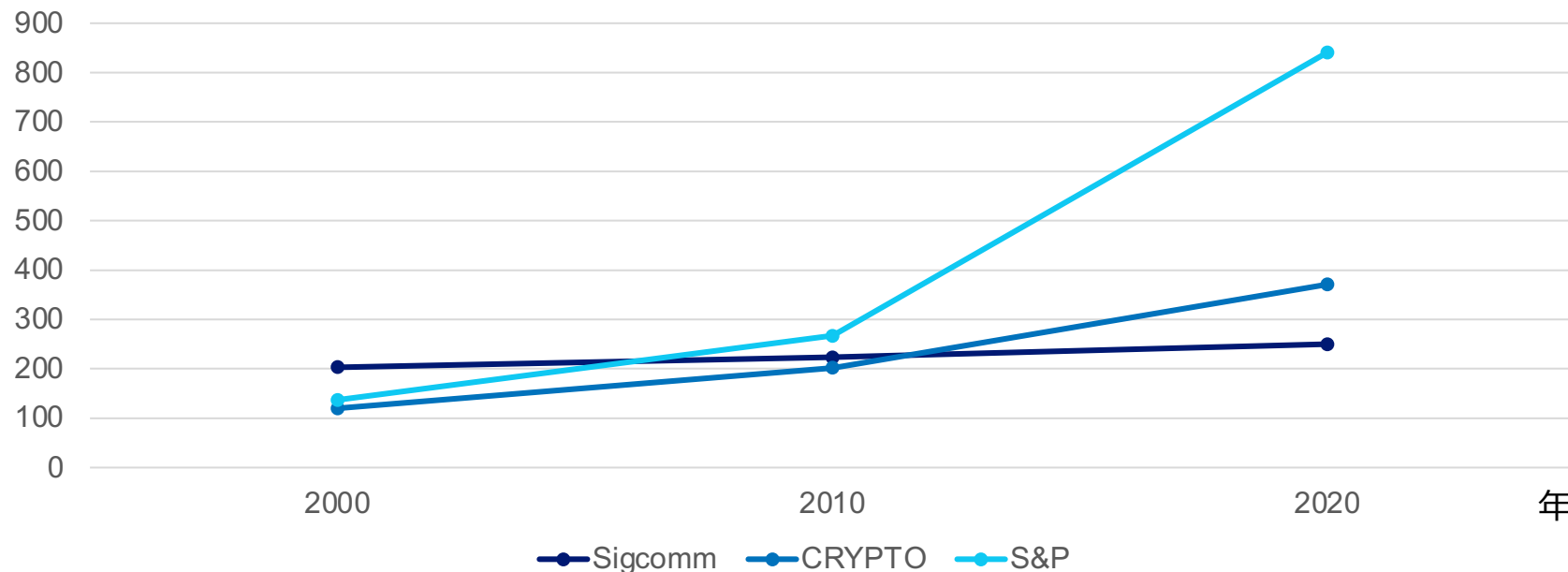
秋山満昭

NTT 社会情報研究所

# サイバーセキュリティ研究の世界的な競争の激化



## 論文投稿数



SIGCOMM（ネットワーク）、CRYPTO（暗号理論）と比べて、S&P（サイバーセキュリティ）の投稿数の著しい増加

# Ethics in Security and Privacy Research Panel in IEEE S&P 2021



モデレータ

Thorsten Holz (S&P2021 PCチェア)

パネリスト

Joseph Bonneau (S&P2021 PC)

Katie Shilton (SIGCHI Ethical  
Committee)

Erin Kenneally (Menlo report作成者)

Roger Dingledine (The Tor Project)

当該論文についての意見

- 当該論文は上位の評価を受けた論文であり、サプライチェーン攻撃に関わる技術的貢献があると見なされた
- しかしPC間で論文の解釈の混乱があった（採択前か後かは不明）
- “Menlo reportの理念”とその“実践”の際のギャップが発生している
- 攻撃研究は少なからずHSRの要素があるのでIRBに聞くべき、との意見に対して、US以外はIRBのない組織も多いという現状

S&PとしてCode of Ethics（倫理規定）やIRBを作るべき？

- Menlo reportをアップデートする意見もあったが、すでにあるMenlo reportを改変する必要がないという意見や、それとは別にケーススタディが重要だという意見が出た
- TorプロジェクトではResearch Safety Boardを設置しておりTorに対する研究を事前審査している。このような事前審査機関の必要性も議論された（※）
- 査読プロセスにおいて安全性と科学を重要視すべきとの意見も

# Hypocrite Commits論文その後： IEEE S&P 2021の対応

## Hypocrite Commits論文に関する声明

[https://www.ieee-security.org/TC/SP2021/downloads/2021\\_PC\\_Statement.pdf](https://www.ieee-security.org/TC/SP2021/downloads/2021_PC_Statement.pdf)

- S&P 2022での対策

- プログラム委員会に Ethical Review Committee を設置、  
全ての論文を研究倫理の観点からチェック
  - › IRB承認を受けているかに関わらず、**研究行為そのもので判断**する
  - › 倫理原則にそぐわない論文はそれを理由にRejectされることがある
- 投稿時の 研究倫理チェックボックス 追加
- 査読時の 研究倫理チェックボックス 追加
- CFPで研究倫理を強調

CSSでは数年前から  
すでに実践

- 自身が著者だったら、研究倫理まで深く考えて実験することができたか？  
自身が査読者だったら、論文の新規性だけに囚われることなく、問題を見抜けていたか？
  - 競争激化によって、新規性が強く重視される傾向になっている
  - （語弊を恐れずに言うと...）研究者として「功を急ぐ」気持ちはよくわかる
- CSSの取り組み（相談窓口・チェックリスト等）は十分なのか？
  - 同じ内容の研究が投稿されていた場合に対処できただろうか？
  - ケーススタディはどのように積み上げるべき？成功例しか表に見えないが失敗も重要では？
- セキュリティ研究者/技術者の開発者に対するリスペクトの欠如
  - 相互扶助でなければ協働は難しい
  - 本質的な課題解決を中長期的に一緒にやる覚悟が必要